

楽2 ライブラリバイнда情報取得ツール操作手引書 V3.3

本書は、楽2 ライブラリのバイнда情報を出力するツール（以下単にツールまたは本プログラムと称します）の操作方法を記載しています。

楽2 ライブラリの対象製品は、楽2 ライブラリパーソナルまたは楽2 ライブラリクライアントサーバ版です。

出力できるバイнда情報の主なものは下記の通りです。

- ・ バイнда情報ファイル.csv
- ・ 同一のバイндаタイトルリスト.csv
- ・ アノテーション情報.csv
- ・ 電子データを含むバイндаリスト.csv
- ・ バイнда使用制限文字チェックリスト.csv
- ・ インデックスが1つも無いバイнда.csv
- ・ インデックス情報同名リスト.csv
- ・ インデックス使用制限文字チェックリスト.csv
- ・ 空バイндаリスト.csv
- ・ インデックスのタブが空欄.csv
- ・ 空インデックスリスト.csv
- ・ インデックス情報
- ・ 目次情報

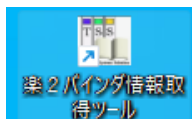
1. 動作環境

本プログラムは、楽2 ライブラリが動作している PC またはサーバで動作します。
なお、楽2 ライブラリのリンクフォルダを外部媒体にコピーした場合、楽2 ライブラリがインストールされていなくても、本プログラムの動作環境設定で楽2 ライブラリリンクフォルダにこの外部媒体のパスを指定することでバイнда情報を取得できます。

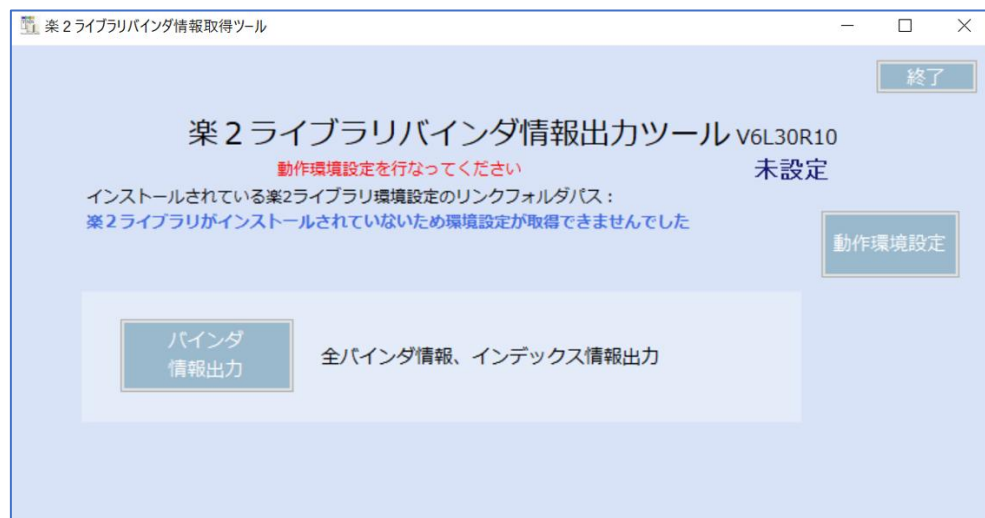
詳しくは別紙の「バイнда情報取得ツールのインストールと設定手順書」を参照願います。

2. ツールの起動

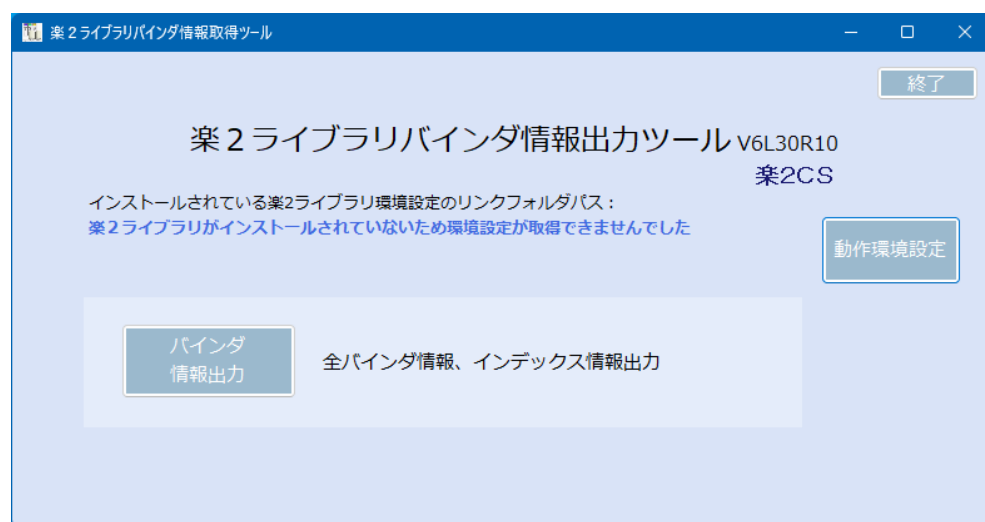
本プログラムはがインストールされているデスクトップ画面にある下記のアイコンをダブルクリックすると、下記の初期画面が表示されます。



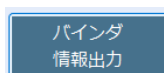
楽2 ライブラリバインダ情報出力ツール 初期画面表示



本ツールの動作環境設定が行われていない場合、上記のようなエラーが表示されます。この場合は、別紙の「バインダ情報取得ツールのインストールと設定手順書」に従って動作環境を設定してください。



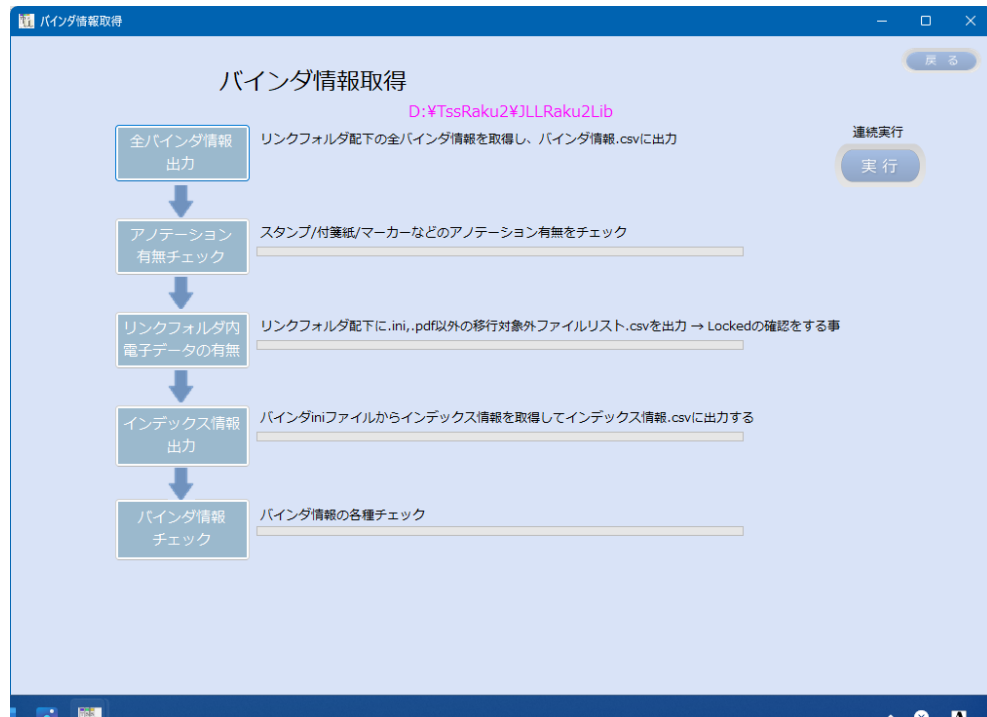
楽2 ライブラリがインストールされていない PC で本ツールを実行した場合は上記の警告メッセージが表示されますが、動作環境設定で楽2 ライブラリのリンクフォルダが設定州物場合は上記のメッセージは無視して構いません。



をクリックすると、次項のバインダ情報取得画面が表示されます。

3. バインダ情報取得

バインダ情報取得画面



実行

をクリックすると全バインダ情報出力からバインダ情報チェックまで連続して実行されます。(推奨)

各ステップを1つずつ実行したい場合は全バインダ情報出力のボタンから実行します。

バインダの数にもよりますが、バインダ情報出力が一番実行に時間を要します。およその目安として1000バインダで2時間程度必要です。

(1) バインダ情報出力

楽2ライブラリのリンクフォルダ(DocumentRoot)から、バインダ情報ファイル.csvを出力します。

バインダ情報ファイル.csvから、一括モードのバインダが存在していないかチェックし、存在している場合は一括モードバインダリスト.csvに出力します。

注意！

一括モードバインダやパスワードが付いたバインダは楽2ライブラリ移行ツールでは対象外となるため確認が必要です。

(2) アノテーションの有無チェック

アノテーションとは、マーカー、スタンプ、付箋紙などの総称です。

これらアノテーションが存在する場合、アノテーション情報.csv に出力します。

アノテーションチェックで何らかのエラーがあった場合、アノテーションチェックエラー.csv が出力されます。

アノテーションが存在する場合、バインダを開いて下記を確認する必要があります。

- ・アノテーションが重要な意味を持っているか。
- ・付箋紙、スタンプなどが背景の文字が隠れてしまっているような場所に貼られていないか。

注意！

アノテーションが存在するバインダの場合、楽2 バインダを開いてチェックする。アノテーションの移行仕様について、基本は移行対象外とします。但し、ご要望により移行可能としますがその場合、下記の問題が発生する場合があります。

- ・アノテーションは文書の PDF に画像として埋め込まれます。その場合、背景の文字などが隠れてしまった場合でもアノテーション画像の移動や削除はできません。
- ・アノテーションが存在している元の文書が A3/B4 の場合、元の電子データが存在する場合は電子データを優先して移行します。この場合は、アノテーションは移行されません。

元の電子データが存在しない場合は、アノテーションを移行対象とした場合、A3/B4 サイズは A4 サイズに縮小されて移行されます。

(3) リンクフォルダ内電子データの有無チェック

バインダフォルダ内に、電子データが存在するかをチェックします。

リンクフォルダ配下の.ini,.log,.pdf,.xdw 以外の拡張子を持ったファイルが存在していた場合、電子データを含むバインダリスト.csv に出力します。

(4) インデックス情報を出力

- ① インデックス情報を Data フォルダと同じ階層にの IndexInfo フォルダに出力します。

ファイル名は、

書庫名_キャビネット名_タイトル1_タイトル2_インデックス情報.csv

インデックス情報に Windows 禁則文字が含まれる時は_に置き換えます。

- ② 目次情報を Data フォルダと同じ階層にの Contentsinfo フォルダに出力します。

ファイル名は、

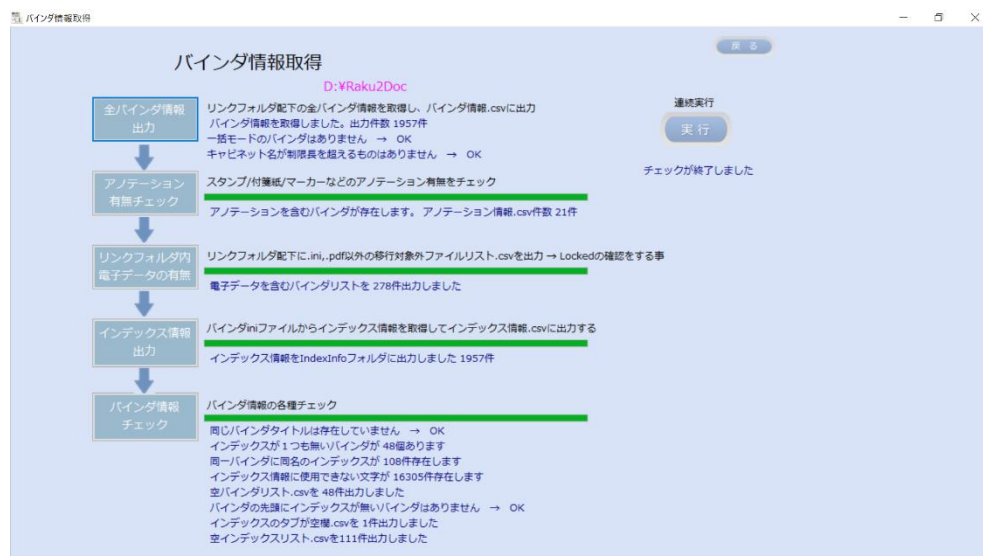
書庫名_キャビネット名_タイトル1_タイトル2_目次情報.csv

インデックス情報に Windows 禁則文字が含まれる時は_に置き換えます。

(5) バインダ情報の各種チェック

- ① インデックスが無いバインダの一覧リスト
ファイル名：インデックスの無いバインダ.csv
- ② インデックス情報をまとめたファイルの出力
ファイル名：インデックス集約ファイル.csv
- ③ 空バインダ情報出力
ファイル名：空バインダリスト.txt

全ての実行が終了すると下記の画面となります。



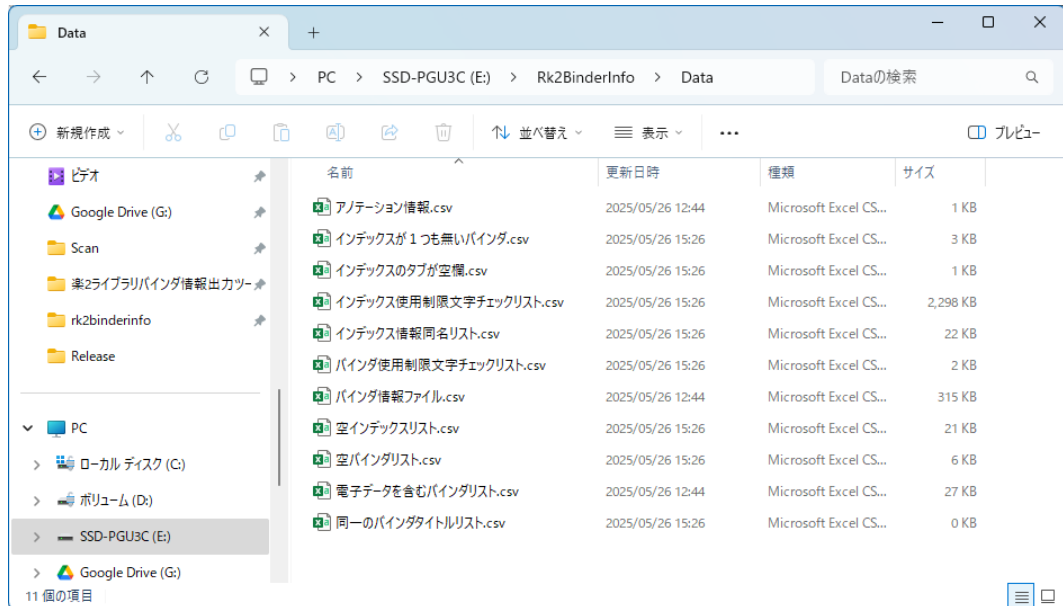
(6) 各種バインダ情報の出力結果

バインダ情報の各種情報は、本ツールの動作環境設定画面で指定された各バインダ情報出力先フォルダに出力されます。

C:\¥Rk2BinderInfo

ContentsInfo	目次情報
Data	各種バインダ情報が出力される
IndexInfo	インデックス情報
ini	動作環境設定ファイル

C:\Rk2BinderInfo\Data



バインダ情報ファイル：

バインダ情報ファイル.csv は、各バインダの属性情報が出力されています。

バインダ情報ファイルの各項目の内容については、本ツールをダウンロードしたサイトに「バインダ情報ファイルフォーマット.xlsx」に記載しています。

インデックス情報：

インデックス情報は、IndexInfo というフォルダ内にバインダごとのファイル名で出力されています。

インデックス情報の各項目の内容については、本ツールをダウンロードしたサイトに「インデックス情報ファイルフォーマット.xlsx」に記載しています。

以上